

国語Ⅱ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2年生 (2単位)	現代文	7	3	0	10
	古文	14	3	0	17
	漢文	4	3	0	7
細目数計		25	9	0	34

2. 分類とそれらの内容

1/2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
現代文	評論	語彙	文中に用いられている漢字・語句を正しく読み書きし、またその意味が理解できる。	A
		読解	段落ごとに筆者の論旨の展開を追うことで、筆者の意見を理解できる。	A
		論理の展開	評論文の論理の組み立て及び展開が理解できる。	B
	小説	文学史	作者についての正しい知識を前提に、作品の成立した背景を十分に理解し、文学史上の位置づけを知ることができる。	A
		語彙	文中に用いられている漢字・語句を正しく読み書きし、その意味が理解できる。	A
		読解	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図(主題)を理解することができる。	A
		鑑賞	文学作品としての構成や表現の特色をとらえ、行間からにじみ出てくる作品の世界を味わい、その文学的世界観を鑑賞することができる。	B
	詩歌	文学史	作者についての正しい知識を前提に、作品の成立した背景を十分に理解し、文学史上の位置づけを知ることができる。	A
		表現	詩歌の形式及び、詩特有の表現・修辞を正しく理解し、作者の意図(主題)を理解することができる。	A
		鑑賞	詩人の発想やそこに込められた思いを踏まえ、詩の世界を味わい、その表現性を十分に楽しむことができる。	B
古文	随筆	文法	活用語の活用形の識別ができる。 解釈に必要な助動詞の意味が理解できる。	A
		語彙・語法	古語の意味及び、古文特有の表現を理解できる。	A
		文学史	日本文学の三大随筆を理解し、授業で取り扱う作品及び作者の文学史上の価値・位置づけが理解できる。	A
		内容理解	それぞれの話の内容を正確に理解し、随筆の中に描かれている人物の描写を正確に理解することができる。	A
		古典常識	作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を理解することができる。	A
		観賞	筆者の主張や教訓を理解し、日本古典の随筆文学の面白さを味わうことができる。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
古文	日記文学	文学史	古典における日記文学の重要性をふまえ、作品の価値を文学史上に位置付けできる。	A
		語彙・語法	基本的文法事項及び修辞法を理解することができる。	A
		内容理解	内容を正確に理解し、日記に描かれている作者の心情を正確に理解することができる。	A
		古典常識	作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を理解することができる。	A
		観賞	作者をとりまく環境を時代背景から推測し、その上に立って文章をより深く味わうことができる。	B
	物語	文学史	物語の種類をふまえ、作者及び作品の文学史上の価値・位置づけを理解できる。	A
		語彙・語法	古語の意味及び、古文特有の表現及び、修辞法を理解することができる。	A
		文法	助動詞の活用及び意味に注意して、文章を解釈できる。	A
		解釈	文法及び古文特有の表現に注意し、場面や物語の展開を理解し、口語訳できる。	A
		古典常識	作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を理解することができる。	A
		観賞	物語の世界観を理解し、物語文学の面白さを味わうことができる。	B
漢文	故事成語	書き下し文	訓点の約束を理解した上で、漢文を訓読できる。またそれを書き下し文にすることができる。	A
		送り仮名	書き下し文を参考にして、白文に送り仮名を付けることができる。	A
		返り点	漢文法と日本語文法の相違点に注意して、白文に返り点を打つことができる。	A
		読解	漢文を読み、内容を理解することができる。	A
		語法	漢文特有の語法を理解することができる。	B
	史伝	文学史	文章の作者及び、その作品を、その時代に即して理解し、文学史上に位置付けることができる。	B
		鑑賞	暗唱できるくらい何度も音読をし、その作品の世界を味わうことができる。	B

倫理の基礎・基本

1. 細項目数

	分類	A	B	C	細目数計
2年生（2単位）	哲学と文化と宗教	3	2	4	9
	よく生きるために	5	5	2	12
細目数計		8	7	6	21

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
哲学と文化と宗教	青年期の課題と自己形成	青年期の意義	イニシエーション、マージナル・マン、モラトリアム人間などを理解する。	B
		青年期の課題と生き方	マズローの欲求階層構造、フロイトの精神分析、ユングの集合的無意識、パーソナリティ、防衛機制などの意義を理解する。	B
	人間としての自覚	哲学と人間	古代イオニア哲学、ソフィスト、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、儒家思想、老荘思想などを理解する。	A
		宗教と人間	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、バラモン教、ジャイナ教、ヒンドゥー教、仏教（大乘・小乗）などを理解する。	A
		芸術と人間	ロダンの彫刻、ミレーの絵画、ベートーヴェンの音楽などの意義を理解する。	C
	国際社会に生きる日本人の自覚	日本人の精神風土	八百万の神、神道、祓い、禊、日本人の倫理観を理解する。	C

		外来思想と日本の 伝統思想	仏教の伝来、聖徳太子、奈良 仏教、平安仏教、鎌倉仏 教、日本における儒教、国 学のおこり、などを理解す る。	A
		西洋思想と日本人 の近代化	啓蒙思想、福沢諭吉、天賦 人権論、中江兆民、自由民 権思想、社会主義、近代デ モクラシー、純粹経験哲学、 民族学などを理解する。	C
		国際社会に生きる 日本人の自覚	日本国憲法、小林秀雄、丸 山真男などの思想を理解す る。	C
よく生きるため に	現代を生きる人間 の倫理	わたしたちの「いま」	E.フロム、自由からの逃走、 M.ウェーバー、官僚性、合 理主義を理解する。	B
		人間の尊厳	ルネサンス、ヒューマニズ ム、宗教改革、ルター、カ ルヴァン、コペルニクス、 ガリレイ、ケプラー、ベー コン、デカルト、社会契約 説、ホッブズ、ロック、ル ソー、道徳法則、カントな どの諸思想を理解する。	A
		民主社会の倫理	功利主義、ベンサム、ミル、 ヘーゲル、マルクス、唯物 史観、プラグマティズムを 理解する、	A
		新たな人間象の模 索	キルケゴール、ニーチェ、 実存主義、ヤスパース、ハ イデgger、サルトル、フ ランクフルト学派、構造主 義などを理解する。	B
		自然や科学技術と 人間のかかわり	ニュートン、パラダイム、 実証主義、進化論などを理 解する。	C

		民主主義の成熟のために	差別と偏見のない社会、マザー・テレサ、フェミニズム、ジェンダー、ロールズ、福祉政策と正義などについて理解を深める。	B
現代の課題を考える		生命倫理	ヒトゲノム解析、クローン技術、尊厳死、QOL、インフォームド・コンセント、などを理解する。	A
		環境と環境倫理	アメニティ、環境問題、カーソン『沈黙の春』、ハーディン「共有地の悲劇」、自然の生存権、などについて理解を深める。	B
		変容する家族	核家族化、少子高齢化、性別役割分担の見直し、などについて理解を深める。	B
		情報社会の中の人間	マスメディア、パーソナルメディア、ステレオタイプ、メディア・リテラシーなどの意義を理解する。	A
		グローバル化する社会の中の人間	グローバル化、NGO、サイド、オリエンタリズム、エスノセントリズムなどを理解する。	A
		豊かな社会とは何か	脱工業社会、リースマン、内部指向型と他人指向型、ボードリヤール、「欲求」と「欲望」、豊さの在り方を深く理解する。	C

歴 史 の基礎・基本

1. 基礎・基本の項目数

	分野	A	B	C	項目数計
2 学年 (1 単位)	日本史	1 6	6	2	2 4
項目数計		1 6	6	2	2 4

2. 項目とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
日本史	古代国家の形成	原始社会	更新世の日本列島・縄文文化について理解することができる。	A
		農耕社会の形成	弥生文化・稲作の普及と小国家形成について理解することができる。	A
			古墳の出現・大和王権と渡来人の活躍について理解することができる。	B
		律令国家の形成	聖徳太子の政治・大化の改新の概要を理解することができる。	A
			律令政治・平城京・平安遷都を理解することができる。	A
			飛鳥文化・白鳳文化・天平文化・平安初期の文化を理解することができる。	B
		貴族社会の形成	藤原氏の発展と摂関政治を理解することができる。	A
			東アジアの情勢と国風文化を理解することができる。	B
			荘園と武士団の成長・院政・平氏の政権を理解することができる。	A
		武家社会の成立	武家社会の成立	源平の争乱・鎌倉幕府の成立・執権政治を理解することができる。
	元寇と御家人社会の変質・鎌倉文化を理解することができる。			B
	下克上の社会		建武の新政・室町幕府の成立、日明貿易を理解することができる。	A
			応仁の乱と下克上・戦国大名の出現を理解することができる。	A
	近世社会の成立	国内統一への道	鉄砲伝来とキリスト教伝来について理解することができる。	A
			織田信長・豊臣秀吉の政治を理解することができる。	A
		幕藩体制の成立	江戸幕府の成立・武家諸法度による政治を理解することができる。	A
			士農工商・当時の農民の負担と生活を理解することができる。	B
			鎖国と鎖国下における外交を理解することができる。	A
		近世社会の発達	文治政治への転換・新井白石の業績を理解することができる。	A
			元禄文化と庶民の生活を理解することができる。	B
近世社会の動揺		徳川吉宗・田沼意次・松平定信らによる改革を理解することができる。	A	
		天保の改革・化政文化と江戸庶民の文化を理解することができる。	A	
現代の世界と日本		新しい国際秩序と日本	激動する国際情勢と日本の同校を理解することができる。	C
	地球規模の課題への対応・日本の課題への取り組みを理解することができる。		C	

線形代数 I の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2 学年 (1 単位)	ベクトル	31	14	5	50
	細目数計	31	14	5	50

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
ベクトル	平面のベクトル	ベクトル	スカラー、ベクトルの意味が理解できる	B
			有向線分の意味が理解できる	A
			ベクトルの大きさが求められる	A
			単位ベクトルの意味が理解できる	A
			$-\vec{a}$ の意味が理解できる	A
		ベクトルの演算	ベクトルの和の意味が理解できる	A
			零ベクトルの意味が理解できる	A
			ベクトルの差の意味が理解できる	B
			ベクトルと実数の積の定義が理解できる	A
			交換・結合・分配法則の意味が理解できる	A
		ベクトルの成分	基本ベクトルの意味が理解できる	B
			成分表示の意味が理解できる	A
			成分による計算ができる	A
			線形結合（1次結合）の意味が理解できる	C
		ベクトルの内積	正射影の意味が理解できる	B
			内積の定義が理解できる	A
			成分による内積の計算ができる	A
			ベクトルのなす角が求められる	B
			内積の性質が理解できる	A
		ベクトルの平行と垂直	平行条件が理解できる	A
			垂直条件が理解できる	A
		ベクトルの図形への応用	位置ベクトルの意味が理解できる	A
			内分点のベクトル表示が理解できる	A
			直線のベクトル方程式や方向ベクトルの意味が理解できる	A
			直線の媒介変数表示による方程式が理解できる	A
			法線ベクトルの意味が理解できる	B
			点と直線の距離の公式が理解でき、それを用いて点と直線の距離を求めることができる	B
円のベクトル方程式が理解できる	C			

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	空間のベクトル	空間座標	直交座標系が理解できる	B
			2点間の距離の公式が理解でき、その公式を用いて、2点間の距離を求めることができる	A
		ベクトルの成分	基本ベクトルが理解できる	B
			成分表示が理解できる	A
			成分による計算ができる	A
			位置ベクトルの意味が理解できる	A
			内分点の座標の公式が理解でき、その公式を用いて、内分点を求めることができる	A
		内積	内積の性質が理解できる	A
			成分による計算できる	A
			ベクトルのなす角を求めることができる	B
			方向余弦の意味が理解でき、方向余弦を求めることができる	C
		直線の方程式	直線のベクトル方程式や方向ベクトルの意味が理解できる	A
			媒介変数表示による直線の方程式の意味が理解できる	A
			2直線のなす角を求めることができる	B
		平面の方程式	平面ベクトル方程式や法線ベクトルの意味が理解できる	A
			平面の方程式を求めることができる	A
			2平面のなす角を求めることができる	B
			点と平面の距離の公式が理解でき、その公式を用いて、点と平面との距離を求めることができる	B
		球の方程式	球のベクトル方程式の意味が理解できる	B
			球の方程式を求めることができる	A
			球に接する接平面の方程式を求めることができる	C
		ベクトルの線形独立・線形従属	線形独立（1次独立）や線形従属（1次従属）の意味が理解できる	C

線形代数Ⅱ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2 学年 (1 単位)	行列	18	11	3	32
	行列式	7	8	5	20
細目数計		25	19	8	52

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
行列	行列	行列の定義	行列の定義や成分の意味が理解できる	A
			零行列の定義が理解できる	A
			行ベクトルや列ベクトルの意味が理解できる	A
			正方行列の意味が理解できる	A
			対角成分の意味が理解できる	B
			対角行列の意味が理解できる	B
			単位行列の意味が理解できる	B
		行列の和・差, 数との積	行列の和・差の定義が理解でき、その計算ができる	A
			行列と数の積の定義が理解でき、その計算ができる	A
			交換・結合・分配法則の意味が理解できる	A
		行列の積	行ベクトルと列ベクトルの積の定義が理解でき、その計算ができる	A
			行列の積の定義が理解でき、その計算ができる	B
			2次の正方行列の積の計算ができる	A
			結合・分配法則の理解ができる	A
			単位行列との積の意味が理解できる	A
			正方行列の累乗の計算ができる	B
			零因子の意味が理解できる	C
		転置行列	転置行列の定義が理解でき、具体的に転置行列を求めることができる	B
			転置行列の性質が理解でき、2つの行列の積の転置行列の計算ができる	B
			対称行列の定義が理解できる	B
			交代行列の定義が理解できる	C
		逆行列	逆行列や正則の意味が理解できる	A
			2次の正方行列の逆行列の計算ができる	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	連立 1 次方程式と行列	消去法	ガウスの消去法の意味が理解できる	A
			係数行列や拡大係数行列の意味が理解できる	A
			上三角行列の意味が理解できる	B
			行基本変形の意味が理解できる	A
			3 元 1 次連立方程式がガウスの消去法で解くことができる	A
			連立 1 次方程式の不定解を求めることができる	B
			行列の階数の意味を理解できる	C
		逆行列と連立 1 次方程式	3 次の正方行列の逆行列を、行基本変形を用いて求めることができる	A
		連立 1 次方程式を、逆行列を用いて解くことができる	B	
行列式	行列式の定義と性質	2 次・3 次の行列式	2 次の行列式の公式を理解できる	A
			サラスの方法を用いた 3 次の行列式の公式を理解することができる	A
		行列式の定義	順列や偶・奇順列の意味が理解できる	C
			行列式の定義が理解でき、定義を用いて 3 次または 4 次の行列式の計算ができる	C
		行列式の性質	行列式の性質が理解できる	A
			行列式の値を求めることができる	A
			転置行列の行列式の公式が理解できる	A
			行列式の因数分解ができる	B
		行列式の展開	小行列式の意味が理解できる	B
			第 1 行 (列) に関する展開の意味が理解できる	B
	行列式の展開の意味が理解できる		C	
	行列の積の行列式	行列の積の行列式の公式が理解できる	A	
	行列式の応用	正則行列	正則行列の行列式は 0 でないことが理解できる	A
			余因子行列の意味が理解できる	B
			余因子行列を用いて逆行列を求めることができる	B
		連立 1 次方程式	クラメル公式を用いて、連立 1 次方程式を解くことができる	C
			斉次連立 1 次方程式を解くことができる	B
		行列式の図形的意味	行列式を用いて、平行四辺形の面積を求めることができる	B
			ベクトルの線形独立・従属の判定ができる	B
			3 次の行列式は平行六面体の体積に等しいことが理解できる	C

微積分学 I の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2 学年 (2 単位)	数列	8	2	4	14
	微分法	18	9	3	30
細目数計		26	11	7	44

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
数列	数列	数列	数列の意味が理解できる	A
			簡単な数列の一般項を求めることができる	A
		等差数列	等差数列の意味を理解できる	A
			等差数列の一般項を求めることができる	A
			等差数列の和をもとめることができる	A
		等比数列	等比数列の意味が理解できる	A
			等比数列の一般項を求めることができる	A
			等比数列の和を求めることができる	A
		いろいろな数列の和	Σ 記号の意味が理解でき、具体的な数列の和を Σ 記号を用いて表わすことができる	B
			Σ 記号の性質の証明が理解できる	C
			自然数の和や自然数の2乗の和の公式を用いて、数列の和を求めることができる	B
			部分分数分解を用いて、具体的な数列の和を求めることができる	C
			漸化式と数学的帰納法	漸化式から数列の一般項を求めることができる
	数学的帰納法を用いて、自然数に関する命題を証明できる	C		
微分法	関数の極限	関数の極限	収束の意味を理解し、極限値を求めることができる	A
			極限値の性質を理解できる	A
			正・負の無限大の意味が理解できる	A
			極限を求めることができる	A
			右・左極限の意味が理解できる	B
	関数の連続	関数の連続	連続の定義が理解でき、関数の連続性の問題を解くことができる	B
			中間値の定理を用いて、ある方程式の解の存在を証明することができる	C
	関数の導関数	微分係数	平均変化率の意味が理解できる	A
			微分係数の定義が理解でき、ある値における微分係数を求めることができる	A
			微分係数と接線の傾きとの関係が理解できる	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
微分法 (つづき)	関数の導関数 (つづき)	導関数	導関数の定義が理解できる	B	
			x^n (n は整数) の導関数の公式を用いて整関数や分数関数の導関数を求めることができる	A	
			導関数の性質 (関数の積・商の導関数など) の証明が理解でき, それらの公式を用いて整式や分数関数の導関数を求めることができる	A	
		合成関数の導関数	合成関数の微分法の証明が理解でき, その公式を用いていろいろな合成関数の導関数を求めることができる	A	
			x^q (q は有理数) の導関数の公式の証明が理解でき, その公式を用いて無理関数などの関数の導関数を求めることができる	A	
	いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数		$\lim_{\theta \rightarrow 0} \frac{\sin \theta}{\theta} = 1$ を用いて, 三角関数を含んだ極限値を求めることができる	B
				\sin, \cos, \tan の導関数の公式の証明が理解でき, その公式を用いて三角関数などを含んだ関数の導関数を求めることができる	A
		逆三角関数の導関数		逆正弦, 逆余弦, 逆正接の定義が理解でき, それらの特別な値を求めることができる	A
				逆関数の微分法を証明が理解できる	B
				逆三角関数の導関数の公式の証明が理解でき, その公式を用いて逆三角関数を含んだ関数の導関数を求めることができる	A
指数関数・対数関数の導関数			自然対数の底 e の意味が理解できる	A	
			極限を使った e の定義が理解できる	B	
			自然対数の意味が理解できる	A	
			$\log x$ の導関数の証明が理解できる	A	
			対数関数を含んだ関数の導関数を求めることができる	B	
			対数微分法を用いて, ある関数の導関数を求めることができる	C	
			x^r (r は実数) の導関数の公式の証明が理解でき, その公式を用いて, ある関数の導関数を求めることができる	A	
			e^x の導関数の証明が理解できる	A	
			指数関数の導関数の証明が理解でき, 指数関数を含んだ関数の導関数を求めることができる	B	
双曲線関数の定義を理解し, その導関数を求めることができる	C				

微積分学Ⅱ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2 学年 (2 単位)	微分法の応用	7	5	5	17
	積分法	13	9	6	28
	積分法の応用	3	3	2	8
細目数計		49	28	20	97

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
微分法の 応用	関数の変動	平均値の定理	ロルの定理が理解できる	C
			平均値の定理が理解できる	C
		関数の増減	関数の増減が理解できる	A
			増減表が書ける	A
			グラフの概形をかける	A
			増減表を用いて、極大値・極小値を求めることができる	A
			極値をとるための必要条件が理解できる	B
			増減表を用いて、最大値・最小値を求めることができる	A
		接線と法線	接線の方程式を求めることができる	A
			法線の方程式を求めることができる	B
	不定形の極限	コーシーの平均値の定理が理解できる	C	
		ロピタルの定理が理解でき、それを用いて、極限值を求めることができる	B	
		漸近線を持つような曲線のグラフの概形がかける	C	
	高次導関数	高次導関数	第2次導関数を求めることができる	A
高次導関数を求めることができる			B	
曲線の凹凸		曲線の凹凸が理解できる	B	
		曲線の凹凸を含んだ増減表を用いて変曲点を求めることができ、またグラフの概形をかくことができる	C	
積分法	定積分と 不定積分	不定積分	原始関数、不定積分、積分定数の意味が理解できる	A
			不定積分の公式が理解できる	A
			不定積分の性質が理解できる	A
		定積分	定積分と面積の意味が理解できる	A
			定積分の性質が理解できる	A
		定積分と不定積分 の関係	定積分の大小関係が理解できる	B
			定積分に関する平均値の定理が理解できる	C
			微分積分法の基本定理が理解できる	C
		定積分の計算	簡単な定積分の計算ができる	A
	偶関数、奇関数の定積分の公式が理解できる		B	
	簡単な図形の面積が求められる	A		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
積分法 (つづき)	積分の計算	置換積分法	1次関数の置換を用いて積分の計算ができる	A
			三角関数の置換を用いて積分の計算ができる	A
			括弧, 根号の中の置換を用いて積分の計算ができる	A
			分母の置換を用いて積分の計算ができる	A
			定積分の置換積分ができる	B
			三角関数への置換を用いて, 定積分の計算ができる	C
		部分積分法	部分積分法の公式が理解できる	A
			$\log x$ の不定積分ができる	A
			逆三角関数の不定積分ができる	B
			定積分の部分積分ができる	B
			指数関数と三角関数の積の不定積分の公式	C
		分数関数, 無理関数の積分	整式の割り算や部分分数分解を利用することによって, 分数関数の不定積分を計算することができる	B
			分数関数の不定積分の公式を理解できる	B
			無理関数の不定積分の公式を理解できる	B
			無理関数の不定積分の公式を用いた定積分の計算ができる	C
		三角関数の積分	三角関数の積を和に直す公式や相互関係を利用して, 三角関数を含んだ不定積分の計算ができる	C
			$\int_0^{\pi} \sin^n x dx$ の公式を用いて三角関数の定積分が計算できる	B
積分の応用	変化率と積分	変化率と積分	位置や速度を求めることができる	A
			簡単な微分方程式を解くことができる	C
	面積・曲線の長さ・体積	図形の面積	2曲線と2直線で囲まれた図形の面積を求めることができる	A
		曲線の長さ	曲線の長さを求めることができる	B
		立体の体積	立体の体積を求めることができる	B
			回転体の体積を求めることができる	B
		回転体の面積	回転面の面積を求めることができる	C

物理Ⅱ の基礎・基本

1. 細目数

	分野	A	B	C	細目数計
1年生 (1単位)	力学	15	16	4	35
細目数計		15	16	4	35

* 物理実験 (5単位時間予定) は記していない

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
力学	平面・空間での運動	ベクトルの定義(と例)	大きさ向きをもつ量であることを理解する(変位、速度、加速度、力、運動量など)	A
		ベクトルの成分	ベクトル \vec{A} を \vec{A} と記述し、その x 成分を A_x 、 y 成分を A_y とよぶ。 $\vec{A} = (A_x, A_y)$ を理解する	A
		ベクトルの大きさ	ベクトル \vec{A} の大きさは、 $A = \sqrt{A_x^2 + A_y^2}$ となることを理解する	A
		スカラー量の定義(と例)	大きさのみをもつ量であることを理解する(質量、速さ、体積など)	B
		ベクトルの加算・減算	ベクトルの加算・減算を図的に実行できる。また、成分同士の加算・減算も理解する	A
		力の合成	2力 \vec{F}_A と \vec{F}_B の合力 \vec{F} ： $\vec{F}_A + \vec{F}_B = \vec{F}$ を理解する	A
		力の分解	力 \vec{F} を \vec{F}_A と \vec{F}_B へ分解できる： $\vec{F} = \vec{F}_A + \vec{F}_B$	A
		速度の合成	速度 \vec{v} と \vec{u} の合成速度 \vec{w} を理解する： $\vec{v} + \vec{u} = \vec{w}$	B
		速度の成分 相対速度	x 軸と角度 θ をなす速度 \vec{v} の x 成分 v_x と y 成分 v_y が、 $v_x = v \cdot \cos \theta$ 、 $v_y = v \cdot \sin \theta$ となることを理解する	B
			速度 \vec{v} に対する速度 \vec{u} の相対速度 \vec{w} ： $\vec{u} - \vec{v} = \vec{w}$	B
	運動方程式の成分	加速度 $\vec{a} = (a_x, a_y)$ を用い、運動方程式を成分で表すことができる $F_x = ma_x$ 、 $F_y = ma_y$	A	
	平面・空間での運動	運動量の成分	運動量保存則を成分で表すことができる $m_1 v_{1x} + m_2 v_{2x} = \text{一定}$	B
		仕事	力 F と物体の移動方向(移動距離 s)が角度 θ をなす場合の仕事の定義 $W = F \cdot s \cdot \cos \theta$ を理解する	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
力 学	重力下での運動	放物体の運動	物体を水平方向に投げ出した場合のx方向、y方向の速度と変位の計算ができる	A
			物体を水平面に対して角度 θ で打ち出した場合の、x方向、y方向の速度と変位の計算ができる	B
		斜面上の運動	重力を斜面に平行方向、垂直方向に分解し、それぞれの運動方程式を記述できる	A
			静止摩擦係数(μ)と摩擦角(θ)の関係を理解する	B
	等速円運動	円運動の要素	等速円運動の半径 r 、速さ v 、周期 T 、角速度 ω の関係を理解する	A
		円運動の加速度	等速円運動の加速度(向心加速度) a は $a = \frac{v^2}{r} = r\omega^2$ となることを知る	A
		向心力	等速円運動する質量 m の物体の向心力、 $F = ma = m \frac{v^2}{r} = mr\omega^2$ を理解する	B
		惑星の運動	惑星に働く向心力は太陽との万有引力である	C
	振 動	単振動	周期運動における変位の表し方を知る	B
		ばね振り子	周期はバネ定数とおもりの質量によることを理解する	C
		単振り子	周期は振り子の長さと言重力加速度によることを理解する	C
	慣性力	慣性力の例	日常体験で慣性力を例示できる	A
		慣性力の性質	加速度 a で運動する座標系内に存在する質量 m の物体には、 $-ma$ の力(慣性力)が働くことを理解する	A
		遠心力	遠心力とは、円運動に伴う慣性力であることを理解する	B
		無重力状態	人工衛星中では、万有引力と慣性力が打ち消しあっていることを理解する	B
	剛体に作用する力	作用線	力の作用点は作用線上を移動させても、その効果は同じであることを理解する	C
		力のモーメント	力のモーメントの定義: 力 \times 回転中心から作用線までの長さ を理解する	B
		つりあい条件	剛体がつり合うためには、 (1) 合力がゼロ (2) 力のモーメントの和がゼロ を満たす必要があることを理解する	B
	流体に作用する力	圧 力	力とそれが作用する面積から圧力が計算できる	A
		パスカルの原理	油圧機や水圧機についてパスカルの原理が応用できる	B
重力場の圧力		大気圧と水圧が計算できる	B	
浮 力		アルキメデスの原理を用いて浮力が計算できる	A	

化学Ⅲ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2年生(1単位)	物質の変化	9	7	2	18
細目数計		9	7	2	18

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
物質の変化	酸と塩基	酸・塩基の理論	「アレニウスの理論」「ブレンステッドの理論」により酸・塩基を定義出来る。	A
		酸・塩基の価数	1 molの酸、塩基から発生する H^+ 、 OH^- の数について理解する。	B
		酸・塩基の強さ	電離度を理解し、強酸、強塩基、弱酸弱塩基を区別出来る。	A
水素イオン指数	水のイオン積	pH	$[H^+] \times [OH^-] = 1.0 \times 10^{-14} (mol/l)^2$ であることを理解できる。	B
		pH	$pH = -\log_{10} [H^+]$ であることを理解し、計算出来る。	A
		pHの測定	指示薬、万能pH試験紙、pHメーター等を例示出来る。	B
中和反応と塩	中和反応	中和反応	中和反応が $H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$ で、中和熱が発生することを理解する。	A
		塩の生成	中和反応で水とともに生じる物質が塩であり、種々の反応形態で生じることを理解する。	C
		塩の種類	正塩、酸性塩、塩基性塩に分類できることを理解する。	C
		塩の加水分解	弱酸、弱塩基から生じた塩が、水と反応してもとの弱酸や弱塩基を生じることを理解する。	B
中和滴定	中和点	中和点	酸の H^+ と塩基の OH^- がちょうど反応して正塩となることを理解する。	A
		中和滴定	$mcv = m'c'v'$ の関係が理解でき、濃度などの計算が出来る。	A
		中和点の確認	pH変化の滴定曲線及び酸・塩基の種類による指示薬の選択について理解する。	B
酸化と還元	酸化還元反応	酸化還元反応	酸化・還元の意味、電子、酸素及び水素の授受について理解する。	A
		酸化数	酸化数の定義と酸化・還元との関係を理解する。	A
		酸化剤・還元剤	酸化・還元との関係、電子の授受について理解する。	B
金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向	電子を放出して陽イオンになる性質、イオン化列を理解する。	A
		金属の化学的性質	水、酸及び空気中の酸素との反応について例示出来る。	B

化学Ⅳ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2年生(1単位)	物質の変化	4	1	1	6
	物質の性質	8	3	2	13
細目数計		12	4	3	19

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
物質の変化	電池	電池の原理	電池の原理についてボルタ電池(分極、減極剤)のしくみが説明できる。	A
		ダニエル電池	分極がなく起電力安定な、ダニエル電池のしくみが説明できる。	A
		実用電池	マンガン乾電池(一次電池)等の実用電池の構造等を理解できる。	C
		鉛蓄電池	二次電池である鉛蓄電池の構造や放電、充電等を理解できる。	B
	電気分解	電気分解の原理	塩化銅水溶液等の電気分解や電気めっきの原理を理解できる。	A
		電気分解の法則	流れた電気量と発生する気体や金属の物質質量との関係を理解できる。	A
物質の性質	金属イオンの分離と確認	定性・定量分析	沈殿反応、呈色反応等を利用した分離・分析方法について理解できる。	A
		金属イオンの分離と確認	銀イオン等の各種金属イオンの分離・確認の操作ができる。	A
	有機化合物の特徴と性質	炭素と有機化合物	無機、有機化合物の定義、有機化合物の物理及び化学的性質等について理解できる。	A
		有機化合物の分類	炭化水素あるいは官能基による分類を理解し種々の化学式で表せる。	A
	有機化合物の分離と分析	有機化合物の分離と精製	有機化合物の分離、精製の重要性、抽出等の分離法を理解できる。	B
		組成式、分子式、構造式の決定	組成式、分子式及び構造式の決定のための計算方法等を理解できる。	A
	飽和炭化水素と不飽和炭化水素	飽和炭化水素	アルカンとシクロアルカンとの分類、構造異性体やアルキル基等を理解できる。	A
		不飽和炭化水素	アルケンとアルキンとの分類や立体異性体等について理解できる。	A
		石油化学工業と精製	石油、石炭および天然ガス、原油の精製、石油化学工業のプロセス等を理解できる。	C
		鎖式(脂肪族)炭化水素の誘導体	アルコール、エーテル、ケトン、カルボン酸等の性質等を理解できる。	B
	芳香族炭化水素	ベンゼンの構造、性質及び反応	基本構造のベンゼン環、塩素化などの付加反応がおこりやすいことを理解できる。	A
		その他の芳香族炭化水素	トルエン、キシレン、ナフタレン、スチレン等の性質等を理解できる。	B
芳香族炭化水素の誘導体		フェノール類や芳香族カルボン酸等の性質等を理解できる。	C	

保健体育 の基礎基本

1. 細目数

分類		A	B	C	細目数計
2年生 (男子) 2単位	基礎的な動き	3	0	0	3
	実技	63	32	5	100
	理論	13	5	0	18
細目数計		79	37	5	121

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
基礎的な動き	スポーツテスト	運動能力テスト	・持久走(1500m)、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ	A	
		体力診断テスト	・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび	A	
		診断と評価	・測定結果に基づく自己評価と診断方法	A	
実技	ソフトボール	スローイングとキャッチング	・オーバースローの習熟、サイドスロー、アンダースロー ・ゴロの捕球と送球、フライの捕球、捕手の構えと送球	A A	
		バッティング	・スイング(体重移動、腰・手首・腕の回転、上体の回転) ・素振り(タイミング、バランス、スタンス、体重移動を練習) ・トスバッティング(バットコントロールと打つポイントを身につける) ・ハーフバッティング(打者は遠くへとばすことよりもジャストミートを心がける)	A A A A	
		バント	・バットの握り方、バントのスタンス(オープンスタンス、スクエアスタンス) ・犠牲バント	A A	
		ピッチング	・スリングショットモーション投法の習熟 ・ウインドミルモーション投法の練習	A B	
		ベースランニング	・打者走者、塁のまわり方、走者の構え	B	
		スライディング	・ベントレックスライディング ・フックスライディング ・投球に関するルールの確認(投球準備動作、投球動作、不正投球:イリガブルピッチ)	A B	
		審判とゲーム	・ストライクゾーンの確認 ・審判は相互審判による(審判練習) ・ゲームをスピーディにするために攻守交代を敏速にする	A A A	
		水泳	各種泳法(クロール、平泳ぎ、背泳ぎ)強化	・クロール(けのび+キック、腰かけキック、壁キック、ブル、キャッチアップ) ・平泳ぎ(キック、キック《背面》、壁キック、ブル+呼吸) ・背泳ぎ(腰かけキック、姿勢づくり+キック、ビート板によるキック、片手ブル、両手ブル、ビート板によるブル)	A A A
			バタフライ	・体のうねり、バネとび ・キック(ビート板を使って)+呼吸 ・片手バタフライ(ビート板使用) ・片手バタフライからバタフライへ	A B
			スタート	・クロール、平泳ぎ、バタフライのスタート ・背泳ぎのスタート	B B
	ターン		・オープンターン(平泳ぎ、バタフライ及びクロール) ・背泳ぎのターン	B	
	25m泳計測		・自由形、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの25m泳計測	A	
	個人メドレー		・4泳法のまとめとして、個人メドレー(バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール)に挑戦	A B	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技	陸上競技	短距離走 スタート	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウチングスタートの習熟（自己に適したスタート法の確認：イロニング・テッドスタート、ミッドイムスタート、バンススタート） ・クラウチングスタートから加速、中間疾走 ・加速走、トップスピードの維持 ・フィニッシュ（決勝線を走り抜く気持ちで胸を突き出す） ・走運動の練習法（変形スタートダッシュ：うつぶせ・片足立・座位・腕立て・後ろ向き、もも上げ歩行・時間走・フォームづくりランニング） 	A A A A B	
		計時 測定	<ul style="list-style-type: none"> ・手動計時の計測法について ・200m記録測定 	A A	
		バレーボール	基本技能の習熟	<ul style="list-style-type: none"> ・パス（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、トス ・パスの練習 ・サービス（アンダーハンドサービス、サイドハンドサービス） 	A A A A
			スパイクの発展	<ul style="list-style-type: none"> ・その場でのボールたたき、向かい合ってたたく、助走と踏み込み：2歩助走（腕の振り上げと上体のそり、腕の位置、スイングをおぼえる） ・オープンスパイクとクイックの理解をして（クロス・ストレート・フェイントコースへの打ち分け）練習 	A
			サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドサービス（手首を曲げて打つ） ・フロッターサービス（手首を伸ばして押し出すように打つ） 	B B
	サービスのねらい所		<ul style="list-style-type: none"> ・相手チームの選手の中で最も弱そうなところ ・エースアタッカーやセンタープレイヤーを狙う（次の動作の妨げ） ・セッターの動きを計算して、セッターがトスを上げにくいところ 	B C C	
	連携複合練習		<ul style="list-style-type: none"> ・レシーブ→トス、レシーブ→トス→スパイク ・サブレシーブ→トス→スパイク（アタックフォーメーションを考えて） 	A B	
	ゲームと審判		<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション、サイドアウト制について十分に理解 ・1-5Wフォーメーション（サービス・アタックレシーブフォーメーションの理解） 	A A	
	ソフトテニス		歴史と特性	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の初期テニスボールの入手が困難なため輸入に頼らないですむゴムボールの考案により軟式テニスが生誕 ・平成4年名称が軟式テニスよりソフトテニスとなった ・ダブルス主体であること 	A
		ラケットの持ち方	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエスタングリップ（地面において上から握る） ・イースタングリップ（地面に直角に立てたラケット上から握る） 	A	
		ラケットング	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールつきウォーミングアップゲーム、ボールつきラリーゲーム ・ボールのラリーゲーム 	A A	
		サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・確実性のあるブッシュサービス、アンダーサービスの練習と習得 	B	
		グランドストローク	<ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンドのアンダーストローク、バックハンドのアンダーストローク 	A	
		ボレー	<ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンドボレー（面の使い方は基本的に扇形） 	A	
		基本的技能練習	<ul style="list-style-type: none"> ・素振り（バック、フォア） ・ネット打ち（バック、フォア） ・ハーコートを使つての乱打 	A A A	
		ダブルスのゲームの 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・3コース（正クロス、ミドル、逆クロス）での乱打 ・雁行陣（1人が前）での作戦 ・並行陣（2人とも後ろ）での作戦 	A A A	
		競技の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスサイドの決定、試合の開始、サービス、レシーブ ・ゲームの取り方、サービスとサイドの交替 	B A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技	サッカー	・基礎技術	・インサイドキック・インステップキック及びびドリブルの習熟 ・アウトサイドキック（壁パスや競り合いのパス） ・インフロントキック（センターリング やフリーキックに使用） ・ヘディング（ジャンピングヘディング） ・ショルダーチャージの理解（正当な身体接触で肩で肩を押し） ・スクリーニング（ボールと相手の間に自分の体を入れてボールを隠し、相手から遠い足でキープする）の理解	A C B B B	
		・複合練習	・オーバーナンバ（フォワードの人数を多くして）による攻防 ・パス練習（ボールをとめて味方を狙ってパス:2(3)人一組トラップ & パス、3人一組ショート・ショート・ロング） ・動きながらのパス、シュート（2人、3人で色々な動きから） ・ゴールをつけての1対1のボールの奪い合い	B A A	
		・ゴールキーパー	・キャッチング（できるだけ体全体で壁をつくり正面でとる、 ・ハイボールの時はゴールに近い足で踏み切る、ハイボールの時は相手の近い膝を曲げる）	B C	
		・スルーパス	・フイート（スローイング、ドロップキック、パンチキック） ・ディフェンスの間にパスを通して決定的な状況をつくるパス	A C	
		・攻撃パターン	・4(キープ)対2(ボールを奪う)によるスルーパスの理解と練習 ・オープン攻撃(コートの外側からドリブルあるいはパスをつないでゴール前にボールを送って得点を狙う:センターリング 攻撃)と中央攻撃(センターフォワード とハーフ陣がコンビをとってコート中央から得点を狙う)からの攻めを理解する ・4(df)・3(mf)・3(fw)システムとポジションの役割を理解	B B A	
		バスケットボール	・基本技能の習熟	・シュート（フリーシュート、リバウンドから・パスからのシュート、ドリブルからのレイアップシュート、ドリブルからのジャンプシュートなど） ・パス(クイックパス、四角パス、三角パス) ・ドリブル(フロントチェンジ から・ビハインドザバックチェンジ から・レックスルーチェンジ から・バックロールチェンジ から)	A A B
			・ノーマークの理解	・自分とボールの間の空間 ・自分とディフェンスの間の空間 ・ディフェンスの背後にノーマークの空間がある	A B
			ピポット&ピポット・ターン	・ボールをキープするときのピポット ・ピポットからのシュート ・ピポットターンからのシュート ・ドリブルを始める時のピポット	B B
			ポストプレイ	・制限区域内でゴールを背にしてポジションをとるプレイヤー: オフェンスにおいてポストプレイヤーを使つての、縦の展開(インアウト)や横の展開(左右のサイド)の方法を理解する	B
			スクリーンプレイ	・スクリーン(つuitate)プレイの戦術的意味を理解する ・スクリーンの動きを理解する	A A
	ディフェンス(個人)		・ボール保持者に対するディフェンス ・動いているとき(オフェンスより内側のポジションをとり続ける、なるべくサイスステップでついていくがスピードが速くなるとクロスステップでついていく)	A A	
	ディフェンス(チーム)		・マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンス ・ゾーンディフェンスの動きと型(2-1-2,2-3,1-3-1)を理解する	A B	
	連携プレー		・パッシング、2対1、3対2	B	
	ゲーム再開の方法		・スローインによる再開 ・スローインのやり方 ・フリースローによる再開 ・フリースローのやり方 ・ジャンプボールによる再開	A A A	
	審判とゲーム		・ハイレーション・ジャンプ・フリースローのジャンプ	B	

保健体育 の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
2年生 (女子) 2単位	基礎的な動き	3	0	0	3
	実技	76	27	2	105
	理論	12	6	0	18
細目数計		91	33	2	126

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
基礎的な動き	スポーツテスト	運動能力テスト	・持久走(1500m)、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ	A	
		体力診断テスト	・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび	A	
		診断と評価	・測定結果に基づく自己評価と診断方法	A	
実技	卓球	基礎技術の練習	ラケットング〔ボールつき、壁打ち、羽根突き式ボールつき〕 素振り(フォア、バック) フットワーク〔相手から出されるボールを前後左右に動いて一定の場所へ打ち返す〕	A A A	
		ボールの回転と反発	クロスとストレート打ち	・サービス(ナックルサービスとドライブサーブ)	B
			ボールの回転と反発を物理的に理解して練習する (上回転：前進回転、下回転：逆回転、横回転、無回転：ナックル)	A	
		サービス	カットサービス	・カットサービス(少し高く構えボールの下を後方から前にこする感じで打つ瞬間強く切る：フォアハンド・バックハンド)	B
			バックハンドのドライブサービス	B	
		ハーフボレー	シェークハンド	・シェークハンド(バックハンド直後に打球、ラケット面は素直よりかぶせる、打球後も肘の位置を変えない)	A
			パートナーとかならず1回交替で打たなければならないので、打球後すぐにコートから離れ、パートナーの邪魔をしない	A	
		ダブルスの練習	打球後、動くことばかりに気をとられない	A	
			基本的な動きにこだわりすぎると動きが不自然になるので、自分の動きやすい方向に動いてもかまわない	A	
		サービスからのシステム練習(ドライブサービスから3球目スマッシュ、カットサービスからの3球目ドライブ+5球目スマッシュ)	B		
		水泳	各種泳法(クロール、平泳ぎ、背泳ぎ)強化	クロール(けのび+キック、腰かけキック、壁キック、プル、キャッチアップ)	A
				平泳ぎ(キック、キック《背面》、壁キック、プル+呼吸)	A
背泳ぎ(腰かけキック、姿勢づくり+キック、ビート板によるキック、片手プル、両手プル、ビート板によるプル)	A				
バタフライ	体のうねり、イルカとび		・キック(ビート板を使って)+呼吸	A	
	片手バタフライ(ビート板使用)		・片手バタフライからバタフライへ	B	
スタート	手、足のタイミング練習(キックとプル動作を合わせていく)		B		
	クロール、平泳ぎ、バタフライのスタート		B		
	背泳ぎのスタート		B		
ターン	・オープンターン(平泳ぎ、バタフライ及びクロール)・背泳ぎのターン	B			
25m泳計測	・自由形、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの25m泳計測	A			
個人メドレー	・4泳法のまとめとして、個人メドレー(バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール)に挑戦	A B			

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技	陸上競技	短距離走 スタート	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウチングスタートの習熟（自己に適したスタート法の確認：イロニング・テッドスタート、ミディアムスタート、パンチスタート） ・クラウチングスタートから加速、中間疾走 ・加速走、トップスピードの維持 ・フィニッシュ（決勝線を走り抜く気持ちで胸を突き出す） ・走運動の練習法（変形スタートダッシュ：うつぶせ・片足立・座位・腕立て・後ろ向き、もも上げ歩行・時間走・フォームづくりランニング） 	A A A A B	
		計時 測定	<ul style="list-style-type: none"> ・手動計時の計測法について ・200m記録測定 	A A	
		バレーボール	基本技能の習熟	<ul style="list-style-type: none"> ・パス（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、トス ・パスの練習 ・サービス（アンダーハンドサービス、サイドハンドサービス） 	A A A A
			スパイクの発展	<ul style="list-style-type: none"> ・その場でのボールたたき、向かい合ってたたく、助走と踏み込み：2歩助走（腕の振り上げと上体のそり、腕の位置、スイングをおぼえる） ・オープンスパイクとクイックの理解をして（クロス・ストレート・フェイントコースへの打ち分け）練習 	A
			サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドサービス（手首を曲げて打つ） ・フロッターサービス（手首を伸ばして押し出すように打つ） 	B B
	サービスのねらい所		<ul style="list-style-type: none"> ・相手チームの選手の中で最も弱そうなところ ・エースアタッカーやセンタープレーヤーを狙う（次の動作の妨げ） ・セッターの動きを計算して、セッターがトスを上げにくいところ 	B C C	
	連携複合練習		<ul style="list-style-type: none"> ・レシーブ→トス、レシーブ→トス→スパイク ・サブレシーブ→トス→スパイク（アタックフォーメーションを考えて） 	A B	
	ゲームと審判		<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション、サイドアウト制について十分に理解 ・1-5Wフォーメーション（サービス・アタックレシーブフォーメーションの理解） 	A A	
	ソフトテニス		歴史と特性	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の初期テニスボールの入手が困難なため輸入に頼らないですむゴムボールの考案により軟式テニスが生誕 ・平成4年名称が軟式テニスよりソフトテニスとなった ・ダブルス主体であること 	A
		ラケットの持ち方	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエスタングリップ（地面において上から握る） ・イースタングリップ（地面に直角に立てたラケット上から握る） 	A	
		ラケットング	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールつきウォーミングアップゲーム、ボールつきラリーゲーム ・ボールのラリーゲーム 	A A	
		サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・確実性のあるブッシュサービス、アンダーサービスの練習と習得 	B	
		グランドストローク	<ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンドのアンダーストローク、バックハンドのアンダーストローク 	A	
		ボレー	<ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンドボレー（面の使い方は基本的に扇形） 	A	
		基本的技能練習	<ul style="list-style-type: none"> ・素振り（バック、フォア） ・ネット打ち（バック、フォア） ・ハーコートを使つての乱打 	A A A	
		ダブルスのゲームの 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・3コース（正クロス、ミドル、逆クロス）での乱打 ・雁行陣（1人が前）での作戦 ・並行陣（2人とも後ろ）での作戦 	A A A	
		競技の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスサイドの決定、試合の開始、サービス、レシーブ ・ゲームの取り方、サービスとサイドの交替 	B A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技	バドミントン	・ラケット遊び	イースタングリップで(ソフトテニスボールつき、卓球の球の連続打ち上げ、シャトルの連続打ち上げ、壁打ち、シャトル拾い、シャトル受け《空中で受ける》)	A
		・サービス	ロングサービス(シングルスでよく使われること、相手コート奥深くにしっかりとシャトルをヒットする)	A
			ショートサービス(フォアハンド・バックハンド:ネットすれすれに越え、ショートサービスラインの近くに落とす)	A
		・ショートサービスに対する対応	プッシュ(フォアハンド、バックハンド)	A
		・ストロークの練習	素振り、シャトルバドミントン(フットワークとストロークの組み合わせ)	A
			ノック形式の練習(バックバウンドリ上に置かれた箱を狙って返球する)	B
			クリアーの打ち合い ドライブの打ち合い	A
			ハイクリアー(できるだけ高く遠くに打つショット)	A
		・ラケットワークとフライトの練習	ドライブンクリアー(ヒクリアー)よりも低く打つ攻撃的なショット)	A
			ロブ(ネット際から大きく打ち上げるリフト)	A
		ウィップ(ネットの高さくらいから小さなモーションで打つ低くてスピードのあるリフト)	A	
		ドロップ(ネットより離れたところからネット際に打つショット)	A	
		ドライブ(床と並行でネットすれすれに打つショット)	A	
		スマッシュ(高い位置から直線的にたたきつけるショット)	A	
		ヘアピン(ネット際から相手ネット際に打つショット)	A	
		プッシュ(ネットの高さ近くから相手コートに押し込むように打つショット)	A	
	バスケットボール	・基本技能の習熟	・シュート(フリーシュート、リバウンドからパスからのシュート、ドライブからのレイアップシュート、ドライブからのジャンプシュートなど)	A
			・パス(クイックパス、四角パス、三角パス)	A
			・ドライブ(フロントチェンジからヒールハンドザバックチェンジから・レック・スルーチェンジから・バックロールチェンジから)	B
		・ノーマークの理解	・自分とボールの間の空間 自分とディフェンスの間の空間	A
		・ディフェンスの背後にノーマークの空間がある	B	
ピポット&ピポット・ターン		・ボールをキープするときのピポット ピポットからのシュート	B	
		・ピポットターンからのシュート ドライブを始める時のピポット	B	
ポストプレイ		・制限区域内でゴールを背にしてポジションをとるプレイヤー: オフェンスにおいてポストプレイヤーを使っての、縦の展開(インアウト)や横の展開(左右のサイド)の方法を理解する	B	
スクリーンプレイ		・スクリーン(ついたて)プレイの戦術的意味を理解する	A	
		・スクリーンの動きを理解する	A	
ディフェンス(個人)	・ボール保持者に対するディフェンス	A		
	・動いているとき(オフェンスより内側のポジションをとり続ける、なるべくサイステップでついていくがスピードが速くなるとクロスステップでついていく)	A		
ディフェンス(チーム)	・マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンス	A		
	・ゾーンディフェンスの動きと型(2-1-2,2-3,1-3-1)を理解する	B		
連携プレー	・パッシング、2対1、3対2	B		
ゲーム再開の方法	・スローインによる再開 ・スローインのやり方	A		
	・フリースローによる再開 ・フリースローのやり方	A		
	・ジャンプボールによる再開	A		
審判とゲーム	・ハイレーションシグニチャー、パーソナルファウルシグニチャー	B		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技	ダンス	・基本の動き	基本の動きと動きづくりの復習と練習	A
		・群れを生かして	動きづくりにプラスして、群れの持つ力を生かす 群れによって更に表現力を高める	A
		・空間の構成	隊形づくり(集合体:1群、2群、3群などのかたまりになって、離散:それぞれが思い思いの場所に)	A
		群れを使って動く	群れのかげ合い(群れが同時に動く、個人または群れが時間的なずれを作る:静と動・追いかける) 群で同時に同一方向に 3群がそれぞれ異なった動きをしながら前の群を追いかける	A A A
		・小道具を利用した群れの動き	道具が描く軌跡や模様を楽しみながら、図形を描くように人と人が移動し、床や空間に楽しい図を描く	A
		・課題による作品づくり	テーマ設定、サブテーマ設定、話し合い(場面の中核の動きをどうするか、グループ内の役割分担:伴奏音をどうするか、記録係・群れの構成係、作品全体の時間配分、発表までの時間配分、音楽、衣装について、役割分担)、サブテーマの動きづくり、グループ間の教え合い、作品づくりと見直し、踊り込み、発表準備、発表	A
		・課題による作品づくり	テーマ設定、サブテーマ設定、話し合い(場面の中核の動きをどうするか、グループ内の役割分担:伴奏音をどうするか、記録係・群れの構成係、作品全体の時間配分、発表までの時間配分、音楽、衣装について、役割分担)、サブテーマの動きづくり、グループ間の教え合い、作品づくりと見直し、踊り込み、発表準備、発表	A
		・課題による作品づくり	テーマ設定、サブテーマ設定、話し合い(場面の中核の動きをどうするか、グループ内の役割分担:伴奏音をどうするか、記録係・群れの構成係、作品全体の時間配分、発表までの時間配分、音楽、衣装について、役割分担)、サブテーマの動きづくり、グループ間の教え合い、作品づくりと見直し、踊り込み、発表準備、発表	A
		・課題による作品づくり	テーマ設定、サブテーマ設定、話し合い(場面の中核の動きをどうするか、グループ内の役割分担:伴奏音をどうするか、記録係・群れの構成係、作品全体の時間配分、発表までの時間配分、音楽、衣装について、役割分担)、サブテーマの動きづくり、グループ間の教え合い、作品づくりと見直し、踊り込み、発表準備、発表	A
		・課題による作品づくり	テーマ設定、サブテーマ設定、話し合い(場面の中核の動きをどうするか、グループ内の役割分担:伴奏音をどうするか、記録係・群れの構成係、作品全体の時間配分、発表までの時間配分、音楽、衣装について、役割分担)、サブテーマの動きづくり、グループ間の教え合い、作品づくりと見直し、踊り込み、発表準備、発表	A
理論	体力づくりトレーニングの実際	・体力トレーニングの とらえ方	・筋活動からみたトレーニング	B
		・体力トレーニングの 分類	・エネルギー供給様式からみたトレーニング	B
		・体力要素別 トレーニング	・持続性トレーニング	A
			・インターバルトレーニング	A
			・レパレーショントレーニング	A
			・レジスタンストレーニング	B
	トレーニング計画	①ウェイトトレーニング(フリーウェイトトレーニングとマシントレーニング・負荷の設定法) ②筋活動力に求められる4つの要素(筋肉づくりと筋力づくり、瞬発力のトレーニング、筋持久力のトレーニング) ・スピードトレーニング ・全身持久力のトレーニング ・総合的な体力トレーニング(サーキットトレーニングなど) スポーツトレーニングの管理サークル:計画⇒実施⇒評価⇒見直し	A B B B	
	感染症と予防	現代の感染症とその予防	・感染症とは何かの正しい理解 ・感染経路を正しく理解し、予防に役立てる ・一般感染症の予防	A A A
		エイズとその予防	・エイズの正しい理解と性感染症の特徴 ・エイズ及び性感染症の予防	A A
AED使用法		AED	・AEDとは ・AEDの必要性和校内及び学校外に設置してある場所の確認 ・AEDの使用方法	A A A

英文法 I・II・III の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
英文法 I	1年生 (1単位)	基礎	15	7	30	52
		発展	0	1	15	16
細目数計			15	8	45	68

		分類	A	B	C	細目数計
英文法 II	2年生 (2単位)	基礎	19	33	0	52
		発展	0	16	0	16
細目数計			19	49	0	68

		分類	A	B	C	細目数計
英文法 III	3年生 (2単位)	基礎	52	0	0	52
		発展	16	0	0	16
細目数計			68	0	0	68

2. 分類とそれらの内容

1 / 4

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分 英文 I	区分 英文 II	区分 英文 III	
基礎	5文型	SV, SVC, SVO, SV00, SVOC	5文型の特徴を理解し、正しく分類することができる。	A	A	A	
	文の種類	平叙/疑問/命令/ 感嘆	平叙/疑問/命令/感嘆の各文の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A	
	動詞	動詞活用	動詞を正しく活用することができる。	A	A	A	
	時制	現在	現在	現在時制の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			過去	過去時制の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			未来	未来時制の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
	進行形	現在	現在	現在進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			過去	過去進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			未来	未来進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
	完了形	現在	現在	現在完了形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
			過去	過去完了形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
			未来	未来完了形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分 英文 I	区分 英文 II	区分 英文 III
基礎	完了 進行形	現在	現在完了進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		過去	過去完了進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		未来	未来完了進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
	助動詞	助動詞としての be, have, do	助動詞としてのbe, have, doを理解し、使用することができる。	A	A	A
		can / could, may / might, must, will, would, shall, should	各助動詞の特徴を理解し、正しく使用することができる。	B	A	A
		ought to, used to, need, had better, dare	各助動詞の特徴を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		助動詞+完了形	助動詞+完了形の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		受動態	平叙/疑問/否定	受動態の平叙文/疑問文/否定文を作ることができる。	A	A
		by動作主の省略	by動作主の省略を理解する。	A	A	A
		群動詞・by以外	群動詞やby以外の前置詞を正しく使用することができる。	C	B	A
		第4文型	第4文型を受動態にすることができる。	C	B	A
		助動詞	助動詞を含む構文を受動態にすることができる。	C	B	A
		進行形・完了形	進行形や完了形の構文を受動態にすることができる。	C	B	A
	不定詞	基本3用法	不定詞の基本的な3つの用法を理解し、分類できる。	A	A	A
		意味上の主語	不定詞の意味上の主語を理解する。	C	B	A
		原形不定詞	原形不定詞の構文を作ることができる。	C	B	A
		不定詞の表す時	不定詞の表す「時」を理解する。	C	B	A
		受動態・進行形・ 否定	受動態、進行形、否定を含む不定詞を理解し、作ることができる。	C	B	A
		疑問詞+ to do	疑問詞+ to doの用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		be + to do	be + to doの用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
	分詞	形容詞的用法(限 定・叙述)	分詞の形容詞的用法(限定・叙述)を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		分詞構文	分詞構文の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		独立分詞構文	独立分詞構文の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分英文 I	区分英文 II	区分英文 III
基礎	動名詞	基本用法	動名詞の基本的な用法を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
		意味上の主語	動名詞の意味上の主語を理解する。	C	B	A
		受動態・否定	受動態、否定を含む動名詞を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の用法を理解する。	C	B	A
	比較	基本用法	原級/比較級/最上級の用法を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
		重要構文	比較に関する重要構文を理解し、使用することができる。	C	B	A
	関係詞	関係代名詞の基本用法	関係代名詞 (who, whose, whom, which, that) の用法を理解し、使用することができる。	A	A	A
		関係代名詞what	関係代名詞whatの用法を理解し、使用することができる。	B	A	A
		前置詞+関係代名詞	前置詞+関係代名詞の文を作ることができる。	B	A	A
		関係副詞	関係副詞 (where, when, how, why) の用法を理解し、使用することができる。	C	B	A
		制限・非制限用法	関係代名詞の制限・非制限用法を理解する。	C	B	A
		関係詞の省略	先行詞や関係詞の省略を理解する。	C	B	A
		複合関係代名詞・複合関係副詞	複合関係代名詞 (whoever, whatever, whichever) と複合関係副詞 (wherever, whenever) の用法を理解し、使用することができる。	C	B	A
	仮定法	仮定法現在	仮定法現在の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		仮定法過去	仮定法過去の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		仮定法過去完了	仮定法過去完了の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		慣用表現	仮定法の慣用表現を理解し、使用することができる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分英文 I	区分英文 II	区分英文 III
発展	句と節	句と節	句と節を理解し、両者を正しく書き換えることができる。	C	B	A
	接続詞	等位接続詞	and, but, or, so 等の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		従属接続詞	時、原因・理由、条件、目的等の接続詞を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	前置詞	前置詞	前置詞の意味を理解し、使い分けることができる。	C	B	A
	冠詞	冠詞	冠詞の意味を理解し、使い分けることができる。	C	B	A
	代名詞	代名詞	代名詞の意味を理解し、使い分けることができる。	C	B	A
	名詞	名詞	名詞の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	形容詞	形容詞	形容詞の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	副詞	副詞	副詞の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	数の一致	数の一致	数の一致を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	同格	同格	同格の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	否定	否定	否定の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	無生物主語	無生物主語	無生物主をの構文を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	話法	話法	話法の用法を理解し、正しく話法の転換をすることができる。	C	B	A
	倒置	倒置	倒置の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	強調	強調	強調の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	同格	同格	同格の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	否定	否定	否定の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	無生物主語	無生物主語	無生物主をの構文を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	話法	話法	話法の用法を理解し、正しく話法の転換をすることができる。	C	B	A
倒置	倒置	倒置の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A	
強調	強調	強調の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A	

英語演習 I II III の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
英語演習 I [1 学年 (2 単位)]	発音	1 5	2	2	1 9
	Speech, Speaking	3	0	5	8
	Listening	1	3	7	1 1
	表現	1 4	0	9	2 3
細目数計		3 3	5	2 3	6 1

	分類	A	B	C	細目数計
英語演習 II [2 学年 (1 単位)]	発音	1 7	2	0	1 9
	Speech, Speaking	3	4	1	8
	Listening	4	1	6	1 1
	表現	1 4	9	0	2 3
細目数計		3 8	1 6	7	6 1

	分類	A	B	C	細目数計
英語演習 III [3 学年 (1 単位)]	発音	1 9	0	0	1 9
	Speech, Speaking	7	0	1	8
	Listening	5	2	4	1 1
	表現	2 3	0	0	2 3
細目数計		5 4	2	5	6 1

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
発音	ハミング発音 STEP1「音のエネルギー」	息の通り道	1-1「ダウン体操」1-2「深呼吸体操」 1-3「スプーン体操」1-4「のど仏体操」 ができる。	A	A	A
		息の出し方	2-1「息の移動体操」2-2「天井体操」 2-3「息の上昇体操」2-4「息の下降体操」 ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP2「音のための 筋肉」	口のストレッチ	1-1「スマイル体操」1-2「ほっぺ体操」1-3「鼻 の下体操」1-4「大らっぱ体操」1-5「小らっぱ 体操」1-6「下くちびる体操」1-7「ねずみ体操」 1-8「あごがまん体操」ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP2「音のための 筋肉」(つづき)	舌のストレッチ	2-1「アップ体操」2-2「パタパタ体操」 2-3「スライド体操」2-4「L体操」 2-5「舌先体操」2-6「R体操」 2-7「Rのハート体操」 2-8「ダウン→R体操」ができる。	A	A	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
発音 (つづき)	ハミング発音 STEP3「音の形」		①基本のロアップ ②基本のロダウン ③らっぱのロアップ ④らっぱのロダウン ⑤あくびのロダウン ⑥三角のロダウン ⑦くちぶえのロダウン ⑧スマイルのロダ ウン ⑨ねずみのロダウン ⑩ハミングの ロダウン ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP4「音のもと」	母音	母音 [a:] [ɔ:] [ɑ] [ʌ] [ə] [ɪ] [ʊ] [e] [i:] [æ] [aɪ] [aʊ] [ɔɪ] [eɪ] [ou] [u:] の発音 ができる。	A	A	A
		子音	子音 [h] [k] [g] [ŋ] [t] [d] [n] [θ] [ð] [ʃ] [ʒ] [ʒ] [ʒ] [s] [z] [f] [v] [p] [b] [m] ができる。	A	A	A
		Lの音	[ə:l]、母音+L、子音+L、先頭Lの発音 ができる。	A	A	A
		Rの音	[ə:r]、[ər]、アルファベットR、子音+R、 先頭Rの発音ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP5「音の動き」	アルファベット (A～Z)	Aから順にZまで発音することができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP6「音の流れ」	文章	文章を、息を切らずに、一息で、一本の線で 結ばれるように発声できる。	B	A	A
	ハミング発音 STEP7「音の変化」	マーク1 (意味の薄い語が弱 い音となる時)	意味の薄い語を弱形で発音することができ る。	A	A	A
		マーク2 (消える音)	弱勢がおかれないhを消去することができ る。[ʌ] を発話で弱い箇所のときにアクセ ントのないあいまいな [ə] で発音する ことができる。スピードのついた発話で、 特に弱い音節の [ə] を消去することが できる。	A	A	A
		マーク2・2 (聞こえなくな る音)	[k] [g] [p] [b] [t] [d] を聞こえなくな るように発音できる。[t] [d] + [θ] [ð] のとき [t] [d] を聞こえなくなる ように発音できる。	A	A	A
		マーク3 (音の切れ目が なくなり、つな がる時)	隣り合う音をくっつけて別の音に変化でき る。子音と母音を区切らず連続させて 発音できる。舌の省エネができる。	A	A	A
		マーク2+マー ク3 (同じ音、似た音 が並んだ場合)	同じ音、似た音を統合させる感じで発音 できる。	A	A	A
		STEP8「音の強弱」 ハミング発音	文章	文章を、強弱をつけて発音することができ る。	B	A
	暗唱文		暗唱文を正しい発音で読むことができる。	C	B	A
応用文		どんな英文でも正しい発音で読むことが できる。	C	B	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
Speech, Speaking	Self Introduction (自己紹介)		英語で自己紹介できる。	A	A	A
	Dialogue (対話)		英語で相手と対話を発表できる。	A	A	A
	Recitation (暗唱)		英語で暗唱文を発表できる。	A	A	A
	Summary (要約)		英文を読んで自分の英語で要約ができる。	C	B	A
	Short Speech		題目を与えられて、短いスピーチを英語で発表できる。	C	B	A
	Following		英文を聞いて、原稿を見ないで後について読める。	C	B	A
	瞬間英作		日本文を見て即座に作文できる。	C	B	A
	応用		英語で言いたいことを話すことができる。	C	C	C
Listening (聴解力)	Dictation (空所補充)		テープを聞いて、空所を適語で埋めることができる。	A	A	A
	Comprehension (内容理解)	実用英語検定 準 2 級リスニング大問 1 (対話の補充)	準 2 級リスニング大問 1 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 2 (対話)	準 2 級リスニング大問 2 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 1 (対話の補充)	準 2 級リスニング大問 1 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 2 (対話)	準 2 級リスニング大問 2 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 3 (長文)	準 2 級リスニング大問 3 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 2 級リスニング大問 1 (対話)	2 級リスニング大問 1 レベルが理解できる。	C	C	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
Listening (聴解力) (つづき)	Comprehension (内容理解)	実用英語検定 2級リスニング大問2 (長文)	2級リスニング大問2レベルが理解できる。	C	C	B
		TOEIC Part I (絵を見ての理解)	TOEIC リスニング Part I レベルが理解できる。	C	C	C
		TOEIC Part II (対話の補充)	TOEIC リスニング Part II レベルが理解できる。	C	C	C
		TOEIC Part III (対話)	TOEIC リスニング Part III レベルが理解できる。	C	C	C
		TOEIC Part IV (長文)	TOEIC リスニング Part IV レベルが理解できる。	C	C	C
		ドラマの英語	ドラマを鑑賞して、登場人物のせりふを理解できる。	C	B	A
表現	対話(基礎)	Survival English	Survival English(生活最低限の英語)が理解できる。	A	A	A
		教室英語	教室英語が理解できる。	A	A	A
		あいさつ	あいさつの表現が理解できる。	A	A	A
		自己紹介	自己紹介の表現が理解できる。	A	A	A
		家族・友人・趣味紹介	家族・友人・趣味紹介の表現が理解できる。	A	A	A
		故郷紹介	故郷紹介の表現が理解できる。	A	A	A
	対話(感情)	誘う・断る	誘う・断るの表現が理解できる。	A	A	A
		話題を変える 興味・関心	話題を変える・興味・関心の表現が理解できる。	A	A	A
		感謝	感謝の表現が理解できる。	A	A	A
		感情表現	感情表現の表現が理解できる。	A	A	A
	対話(場面)	聞き返す・尋ねる・頼む	聞き返す・尋ねる・頼むの表現が理解できる。	A	A	A
		Directions	Directions の表現が理解できる。	A	A	A
		Shopping	Shopping の表現が理解できる。	A	A	A
		Airport -Departure	Airport-Departure の表現が理解できる。	C	B	A
		Airport -Arrival	Airport-Arrival の表現が理解できる。	C	B	A
		Telephone	Telephone の表現が理解できる。	C	B	A
		Post Office	Post Office の表現が理解できる。	C	B	A
		Restaurant	Restaurant の表現が理解できる。	C	B	A
		Hospital	Hospital の表現が理解できる。	C	B	A
		Bank	Bank の表現が理解できる。	C	B	A
		Hotel	Hotel の表現が理解できる。	C	B	A
Reporting an Emergency	Reporting an Emergency の表現が理解できる。	C	B	A		